

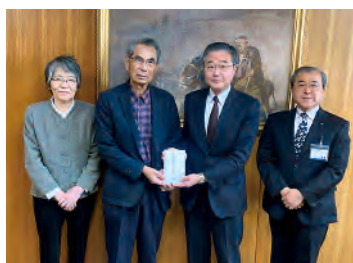
桜のキャンパスを一般開放しました

4月11日(金)から18日(金)まで、桜の開花時期に合わせてキャンパスを一般の方々に向けて開放しました。期間中は、3,000名を超える大変多くの皆さまがご来学されました。今後も地域との連携に努めて参ります。



「五十嵐奨学金」のご寄付をいただきました

4月16日(水)に新潟から五十嵐純夫様、弘子様ご夫妻が工学部キャンパスをご訪問され、これまでご支援をいただいている「五十嵐奨学金」に対して、新たなご寄付を賜りました。「五十嵐奨学金」は、平成22(2010)年に創設され、これまで約200名が支援を受けており、在学中にこの奨学金の支援を受けた卒業生は社会の第一線で活躍しております。五十嵐様ご夫妻には、このたびのご寄付に対しまして心より感謝申し上げます。



郡山市歴史情報博物館との連携事業

『安積疏水と東北の土木遺産【図面コレクション】』が開催されました

3月15日(土)に開館した郡山市歴史情報博物館との連携事業として、6月11日(水)から15日(日)まで『安積疏水と東北の土木遺産【図面コレクション】』が開催されました。安積疏水などの東北の土木遺産を貴重な設計図面とともに紹介するもので、土木工学科の知野泰明教授による研究成果が展示されました。



3年ぶりに体育祭を開催しました

6月28日(土)、工学部体育館にて体育祭を3年ぶりに開催しました。体育会に所属する学生が運営を担い、バスケットボール、バレーボール、eスポーツの3競技が行われ、盛り上がりを見せていました。



寄付のお礼

本学部では「学生団体指定課外活動支援寄付制度」を設け、公認サークルの活動に対し、ご寄付を受け入れております。ご寄付をいただきました各企業の皆さまにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

ご寄付いただいた企業各社様 (敬称略/掲載許可企業のみ)	公認サークル
(株)Biotop	ロハスの水環境
日鉄テックスエンジ(株)	硬式野球部
(株)小野工業所	土木女子の会/吹奏楽部/ ロハスの水環境
古川池愛護会 会長 高橋晋也	起業サークル
三成研機(株)	硬式野球部
平晋建設(株)	卓球部
(株)郡山測量設計社	ロハスの水環境
TryFor Holdings(株)	硬式野球部

※令和7年4月3日(木)～6月30日(月)受贈分

企業協賛企画による 土木工学科オリジナル 作業着が配布されました



企業協賛企画が本年度より始まり、土木工学科1年次生全員にオリジナル作業着が無償配布されました。ご協賛をいただきました各企業の皆さまにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

ご協賛いただいた企業各社様 (敬称略)
ビーエス・コンストラクション(株)/ドービー建設工業(株)/(株)櫻エンジニアリング/(株)東建工営/平晋建設(株)/矢田工業(株)/(株)ホープ/佐藤工業(株)(本社:福島県)/SMCシビルテクノス(株)/(株)新和調査設計/(株)ネクスコ・エンジニアリング東北

令和7年春の叙勲受章者のご報告

内閣府が発令した令和7年春の叙勲におきまして、工学部関係の右記の方が長年のご功労を認められ受章されましたので、ご紹介させていただきます。謹んでお祝い申し上げます。

瑞宝小綬章 教育研究功労

高橋 迪夫氏 日本大学名誉教授/日本大学工学部土木工学科卒業

未来へ語り継ぎたいものがある

工学部広報

2025 No.274 令和7年7月31日

編集:日本大学工学部広報委員会
発行:日本大学工学部 TEL(024)956-8618
〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1
https://www.ce.nihon-u.ac.jp
E-mail ceb.koho@nihon-u.ac.jp
ご意見・ご要望がございましたら、お気軽にお寄せください。



未来へ語り継ぎたいものがある

工学部広報



2025.4.2 開講式 1年次生集合写真

新入生特集

Contents

学部長挨拶	1	学生の活躍	7-8
新任教員紹介	2	工学部の魅力再発見「まなバいいぞ。」	9-10
新入生特集		工学部だより	11
新入生の声	3-4		
新入生行事紹介	5-6		

学部長挨拶

「自主創造」の理念の下、

「ロハス工学」を学び、自らの能力を

高めていくことを期待しています

令和7年4月2日に、工学部および大学院工学研究科への新入学生を迎えて、保護者の皆様も会場に臨席していただきました上で、令和7年度開講式を挙げていただきましたことは、本学にとりましてこの上ない喜びであります。

日本大学工学部では、「ロハス工学」をキーワードとした教育・研究活動に取り組んでいます。新入学生および在学生のみなさんが学修・研究活動や課外活動を通してお互いの絆を深めながら「ロハス工学」を学び、日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力の獲得に繋げていくことを期待しています。

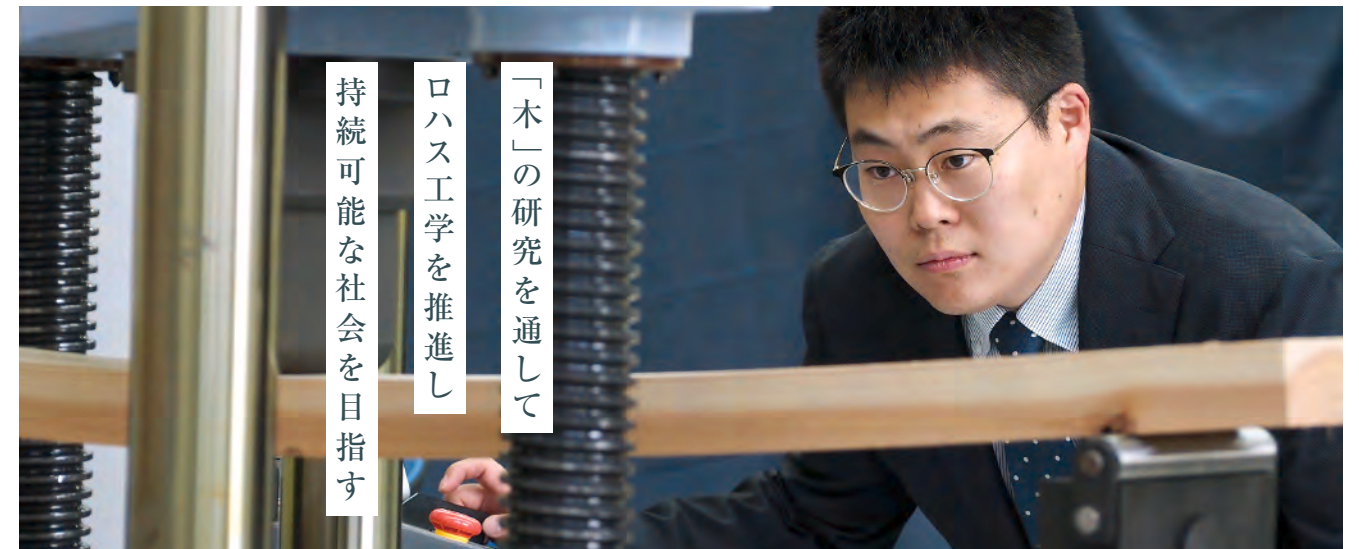
近年、さまざまな大規模自然災害が世界各地で頻発しております。その大きな原因は地球規模における温暖化であることは工学部ならびに工学研究科のみなさんもよくご存知かと思います。また、世界各地で紛争が絶えず、世界情勢不安の収束もいまだ見えない状況にあります。そのような先行き不透明な時代を迎えている中で、健康で持続可能な生活様式を工学的観点から支援しようとする学問である「ロハス工学」を身につけようとしている在学生のみなさんは、将来、必ずや大きな社会貢献をしようとする人材となるものと確信しております。在学生のみなさんの成長を支援するためにも、令和7年度は、引き続き、「ロハスの森」と命名したキャンパス内の一画の整備を推進するとともに、さまざまな研究プロジェクトからあげられる研究成果について社会に情報発信を行い、工学分野のみでなく、さまざまな学問分野で「ロハス工学」の重要性が認知され、「ロハス工学」を「ロハス学」へと発展させるために、ロハス工学センターを中心として、工学部ならびに工学研究科は歩みを進めて参ります。

工学部教職員は、一丸となり、工学部ならびに工学研究科の在学生のみなさん一人一人の学生生活ならびに教育・研究活動のサポートに誠心誠意努めて参りますので、在学生のみなさんが継続的に自己を高める努力を怠らず、一刻一刻の時間を大切に時を刻んでいき充実した学生生活を送ることを切に願っております。

日本大学工学部長 根本 修克

新任教員紹介

新たに着任されました
教員の方々をご紹介します。



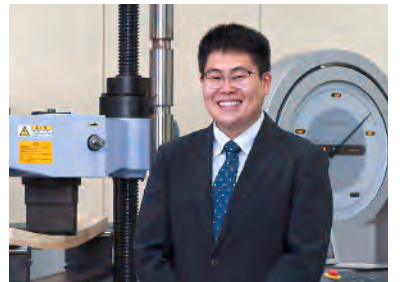
「木」の研究を通して

ロハス工学を推進し

持続可能な社会を目指す

土木工学科 及川 大輔 助教 木材工学研究室

土木工学の中の「木」の分野を専門に、現代ニーズに応える木橋構造の開発と、木質構造の持続的な維持管理について研究しています。森林資源を有効活用し、持続可能な社会インフラを目指す、まさにロハス工学に通じる研究です。これまでの数値解析を主とした手法と工学部の充実した実験設備を活用した実証実験との両輪で研究を進めていきます。父の背中を追い、飛び込んだ土木の世界。地域のシンボルになり得る木橋をつくることを目標に、私も学生のみなさんとともに学びながら、様々なことに挑戦していきたいと思います。



多様な人々の感性と

行動を紐解き

環境をデザインする

建築学科 辻村 壮平 准教授 社会音響学研究室

建築は単なる箱ではなく、人の感じ方や行動と深く結びつき、人を包み込むように存在しています。私は、その空間を使う人がどのように行動するかを考慮した人間中心の設計が重要だと考えています。建築環境心理学や音響工学の観点から、オフィスや公共施設、都市環境まであらゆる空間を対象に、人の心理、生理的な評価モデルの構築、それを応用した環境デザイン手法の研究を進めていきます。JR東日本の鉄道列車内の「色覚配慮型路線図」も、研究成果の一つ。自分が好きなこと、やりたいと思う建築を通して、社会に貢献できる醍醐味を一緒に味わっていきましょう。



新入生の声

新入生のみなさん!ようこそ日本大学工学部へ。
どんな思いで工学部に進学したのか、叶えたい夢、成し遂げたい目標は?
新たな道への一步を踏み出した新入生のみなさんに、その思いを語っていただきました。



特別奨学生に選ばれたことを 誇りに学業や資格取得に励む

持続可能な社会を目指すSDGsと共通するロハス工学を学びたいと考えて工学部に入学。大規模な研究施設でコンクリートについて学びたいと思ったことも理由の一つです。特に力を入れている授業は基礎力学と測量学。将来は、地元のインフラ整備に貢献できる技術者になることを目標に、アルバイトやサークル、資格取得にも挑戦し、充実した大学生活にしたいです。

土木工学科 深澤 光翔さん(青洲高等学校出身)

医療現場の課題を解決できる 機器を開発することが夢

高校生の時に放送技術班に所属したことで音響機器に興味を持ち、電気電子工学を学ぶために大学に進学しました。工学部は就職に強くて資格もいろいろ取れることが強み。電気電子製作実習ではゲルマニウムラジオを作っていますが、回路などの仕組みを学ぶのがとても面白いです。将来は医療機器を開発したいと思っているので、専門知識や技術をしっかり身につけたいです。

電気電子工学科 森島 綾真さん(島田工業高等学校出身)



建物を設計する面白さを体感! 宅建やコンペにも挑戦したい

母が卒業生だったことや高校の探究授業でロハスの家の研究について知る機会があり、日本大学工学部は私にとって身近な大学でした。今よりもっと建築を好きになりたい、いろいろ建築のことを学びたいと思い、建築研究会にも入りました。また、自分の武器を身につけるために宅建講座も受講。それ以外にもいろいろな資格やコンペに挑戦したいと思っています。

建築学科 山本 芽依さん(安積黎明高等学校出身)



将来の目標は高校教員になること! 知見を広げ希望の道を切り拓く

SDGsなどの環境問題に関心があったので、ロハス工学を教育に取り入れている点に魅力を感じ、工学部を選びました。学修面の不安はありましたが、チューター制度や先生方の親身なサポートのおかげで、安心して勉強できます。数物交流会など複数のサークルにも所属。全国から集まった様々な価値観を持つ人との交流を通して、知見を広げていきたいと思っています。

生命応用化学科 佐藤 愛花さん(致道館高等学校出身)



ここでしか学べないロハス工学で 持続可能な社会を実現したい

ものづくりに関わる勉強だけでなく、他大学にはないロハス工学が学べることに魅力を感じて工学部を選びました。お金を貯めてレーシングロードバイクを購入し、念願の自転車部に入部。先輩方と猪苗代湖までサイクリングに行ってきました。一人暮らしの食生活に欠かせない学食。お気に入りにはソースカツ定食です。自由に学べる大学の環境を満喫しています。

機械工学科 熊久保 悠人さん(常総学院高等学校出身)

プログラミングの基礎を学び AIの研究に挑戦したい

AI分野への興味から情報工学を学べる大学を調べた中で、工学部は研究室の種類が豊富で面白そうな研究がたくさんあり魅力に感じました。プログラミングは大学に入ってから本格的に始めたため、最初は難しく感じましたが、完成した時は達成感があり、成長していることを実感します。学生のうちに情報系や英語の資格を取得したり、海外にも行ってみたいです。

情報工学科 堀江 愛花さん(安房高等学校出身)



新入生行事紹介

新しいステージの幕開け！

工学部開講式

4月2日(水)、工学部大講堂において、令和7年度日本大学工学部開講式が開催されました。開花が待ち望まれる桜並木の下、例年にはない寒さにも負けない大きな夢と希望に胸を膨らませた新入生たちが集い、工学部生としての一步を踏み出しました。会場には多くの保護者の皆さまにもご参加いただき、共に門出を祝うことができました。



在学生からの
歓迎の言葉

建築学科3年
鈴木ひかりさん



新入生歓迎行事

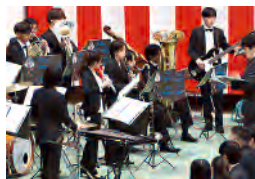
第1部 新入生歓迎講演会

開講式に続いて新入生歓迎行事が行われ、スタートアップファクトリー代表である鈴木おさむ氏にご講演頂きました。人生の選択肢をどう増やし、選んで生きていったらワクワクしてられるか、これまでの自身の経験をもとにアドバイスしてくださいました。



第2部 在学生によるサークル紹介

講演に続き、サークル団体による恒例の新入生歓迎パフォーマンスが披露されました。72団体の中から7団体がステージ発表を行いました。



新入生保護者を対象とした 学部説明会

保護者の皆さまには70号館で「新入生保護者を対象とした学部説明会」にご参加いただき、工学部の教育の特色や就職状況、様々なサポート体制を紹介しました。在学生からもキャンパスライフを紹介。学生の一日常や生活費のこと、就職活動、大学院生の研究活動など、実際の学生の声で工学部の様子をお伝えしました。



自然と広がるトモダチの輪!!!

新入生学内研修

4月4日(金)、令和7年度日本大学工学部学内研修が行われました。学内研修「トレジャーハンティング」は5回目を迎え、広大なキャンパスを有する工学部ならではの恒例行事となりつつあります。ゴールという目標に向かってチーム全員で協力するうちに、仲間と打ち解けることができ、工学部キャンパスもぐんと身近に感じられるようになったことでしょう。



みんな優しくて
一緒に周って
楽しかったです！



福島県を知って学修に活かせよう！

新入生学外研修

4月7日(月)には学外研修が行われました。福島県内の伝統や文化に触れる学科、最先端の施設を訪れる学科など、学科ごとに特徴ある研修地へ赴き、これから共に学ぶ仲間との交流を深めました。訪れた現地では、施設の見学を中心にそれぞれの学科の学びに繋がる説明を聞き、社会に生きる工学を体感できたようです。ご当地グルメの昼食を堪能し、観光気分も味わえる研修となりました。



土木工学科は
千五沢ダムと
小名浜マリブリッジを
見学しました！



キャンパスライフを充実させよう！

サークル勧誘

4月10日(木)、70号館1階フロアと屋外北側通路にてサークル勧誘が行われました。体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会の学生によるサークル勧誘実行委員会が企画運営したイベントです。各サークルのブースにはたくさんの新入生が詰めかけ、先輩から説明を受ける様子が見られました。7013教室に設けられたミニステージでは8つの団体が気合の入ったパフォーマンスで会場を湧かせていました。



面白そうな
サークルがいっぱいで
悩んでいます！



学年を超えて交流が深まる！

土木女子の会



5月13日(火)、土木工学科の女子学生で構成される「土木女子の会」による、新入生歓迎会が開かれました。この日、初顔合わせとなる1年次生7名と2年次生から4年次生までの9名が集まり、ケーキを食べながら、地元トークや入部したサークルの話などで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

全学共通教育科目「自主創造の基礎」の授業！

ワールドカフェ



6月1日(日)、「日本大学ワールド・カフェ」工学部会場を70号館で行いました。「ワールド・カフェ」とは、カフェで行うようなオープンで自由な会話を通してこそ新たな発想が期待できる、という話し合いの手法のことを言います。当日は工学部1年次生の各学科混成グループで「大学ってどんなところ？」をテーマにグループで協働ワークを行いながらアイデアや考えを共有しました。

学生の活躍

学会での受賞や
地域貢献活動をクローズアップ

Activity 01

SDGsの目標達成に資する研究や社会活動で地域に貢献！

学生が主体となって主にオープンキャンパスの企画運営や大学見学などのイベントを行うオープンキャンパス実行委員会。「自分のやりたいことを形に」をモットーにさまざまな活動を実施しています。

オープンキャンパス
実行委員会の
活動をチェック！

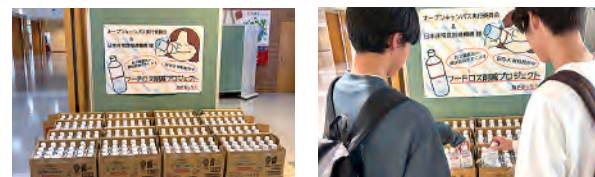


Instagram

「フードロス削減プロジェクト」を推進！

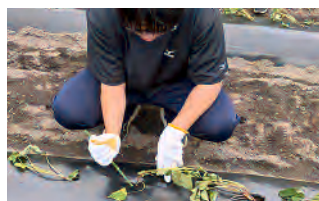
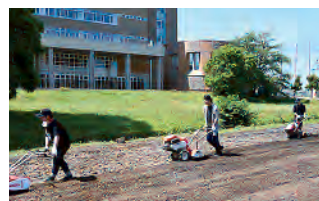
工学部では公益社団法人日本非常食推進機構（三重県松坂市、古谷賢治理事長）と連携・協力に関する協定を締結し、フードロス削減に取り組むとともに、学生・教職員らの防災意識の向上を図っています。その一環として、桜の開花に伴うキャンパス一般開放にて、4月12日（土）・13日（日）にオープンキャンパス実行委員会が団子の無料配布とともに、賞味期限が近い災害用備蓄食品として水とクッキーの無料配布を実施しました。地域の皆さまにもフードロス削減にご協力いただくとともに、本学部の防災意識向上への取り組みにご理解いただく良い機会となりました。

6月6日（金）から10日（火）の期間には、日本非常食推進機構のご協力のもと、賞味期限の近づいた災害備蓄用保存水を70号館1階で無料配布しました。学生たちは水を手に取りながら、フードロス削減と防災への意識を高めていました。



今年も始動！「ロハスの畑シーズン3」

令和6年度日本大学自主創造プロジェクトの「優れたプロジェクト」に選定された「ロハスの畑プロジェクト」。本年度もJA福島さくら様のご協力のもと、農業や化学肥料に頼らない環境にやさしい循環型農業として、さつまいもの自然栽培を開始しました。3年目を迎える今回は、「竹パウダー」を用いたさつまいも畑の土壌改良を行いました。近年放置竹林による「竹害」が深刻化し、環境に大きな影響を及ぼすとして懸念されていることから、それらの竹からパウダーを生成し、循環型農業の一環としての挑戦となりました。6月7日（土）に畑の整備、14日（土）に苗植え、その後は定期的に除草や水撒きを行っています。10月に収穫体験を実施する予定です。



Activity 02

ロハス工学を活かしたインターンシップで自然と共生する地域づくりに貢献



工学部では、日本大学客員教授の後藤千恵氏が理事を務める一般社団法人「天草1000年の人と土の営み」と連携し、熊本県天草市でロハス工学を実践して地域づくりを体感できる工学部生限定の「課題解決型インターンシップin天草」を令和5年度より実施しています。今回は『イルカ・ロハスの森公園（仮）』にホタルビオトープをつくる！』をミッションとし、2月18日（火）から26日（水）に実施。参加した5名の学生は【階段作り班】【ビオトープ班】に分かれ、地域の方々と共に課題解決に向けて活動しました。

4月30日（水）には工学部本館において報告会が行われ、学生たちが成果を発表しました。根本修克工学部長は「社会に出てからも通用するような経験ができたことは大変喜ばしい」として、学生たちを労っていました。



Activity 03

第56回毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部「金の卵賞」を受賞！



第56回毎日・DAS学生デザイン賞（毎日新聞社・総合デザイナー協会DAS主催）大学生の部「金の卵賞」の建築部門において、今春、建築学科を卒業した三瓶夏蓮さん（建築計画研究室/指導教員：浦部智義教授）の作品『光を渡く-和紙の可能性-』が入選を果たしました。この作品は、三瓶さんが学部4年次の卒業設計で取り組んだもので、郡山市の海老根地区の伝統工芸品和紙を手掛かりに、その製造過程や和紙の素材を活かした空間を持つ建築群によって地域の活性化の可能性を提案した作品です。木造建築と絡ませて和紙を建材として利用したり、棚田によるレベル差を活かした空間構成や建築デザインが高く評価されました。

Activity 04

第35回自動車技術独創アイデア コンテストで最優秀賞を受賞！



自動車に関連する安全、環境、情報、快適さ等のアイデアを競う、第35回自動車技術独創アイデアコンテスト（公益社団法人自動車技術会東北支部主催）大学・高専・専門校の部において、機械工学科3年の坂大小雪さんが見事最優秀賞を受賞しました。坂大さんは、近年、緊急車両の接近に気づかず、適切に避けられない車が増え、事故や搬送の遅れにつながっている点に着目。緊急車両の経路をリアルタイムにナビで表示し、AIが適切な道の譲り方を提案することで、安全かつ迅速な緊急対応や事故の防止につながる「緊急車両走行ルートAIナビシステム」を提案しました。安全性を考慮した実現性の高さが評価され、最優秀賞に輝きました。

学びパフォーマンスが高い、 つまり「まなパ」がいい大学です。

7つの価値がわかる
「まなパ」いいぞ。
サイトはこちら



日本大学工学部の魅力、それは「学びパフォーマンスの高さ」です。学修から生活、就職に至るまで学生の満足度が高い、つまり学びパフォーマンスが高いことが日本大学工学部の特色であり魅力に繋がっています。学生たち、教職員たちのリアルな声から導き出された7つの価値。日本大学工学部での4年間の学びは、みなさんを社会で活躍できる人材へと大きく成長させてくれるでしょう。

就職力の強さは「まなパ」の証明！

多くの学生が実感する工学部の「まなパ」の良さは、「強い就職力」ではないでしょうか。高い就職実績の要因として、低学年からキャリアプランを考える機会や職業選択の一助となるイベントなどを多数実施していることが挙げられます。1年次の後学期にはキャリアデザイン教育講座、2年次4月から就職ガイダンス、約500社が参加する「工学部企業セミナー」や本部で開催する「日本大学合同企業研究会・就職セミナー」も2年次から参加できます。個別に企業の方や卒業生を招いて行う業界セミナーや就職応援セミナーも実施。さらに、各学科では

カリキュラムに独自のキャリア教育プログラムを導入するなど、早い段階から学生が就職への意識を高められるよう取り組んでいます。

また、工学部では地元企業や自治体との産官学連携による共同研究や実証実験が盛んに行われ、県内就職を志望する学生の大きな後押しになっています。

日本大学卒業生の強力なネットワーク、工学部と地元企業との強固な連携、学生一人ひとりに応える教職員の手厚い就職サポート、これらが満足度の高い就職の実現に繋がっているのです。



就職指導担当 松村哲哉教授

地域と連携したコミュニティが創る就職力の強さ

工学部では、地元企業や自治体との強力なつながりによって、さまざまな取り組みが行われています。自らが学ぶ地域を大切にすることでさらに人間力が高まるのです。その実例をご紹介します。

File01 地域に根差す産学官民協働プロジェクト

50社以上の企業が賛同する地域貢献活動に 学生たちも参加

6月7日(土)、工学部の学生・教員・卒業生と古川池愛護会および協力企業による徳定川・古川池清掃活動が行われました。この日、県内外から約120名の卒業生が清掃活動に参加することから、午前中には初の試みとなる『学生×卒業生 就活トーク交流会』、その後、清掃活動に参加した50社以上の協力企業との『学生×企業懇親会』を開催。直接、卒業生や企業の方にお話を聞ける絶好の機会ということで、学部1年次生から大学院生まで幅広い年代が集まりました。和やかな雰囲気の中で会話が進むと、学生から積極的に業界のことや仕事内容、就職先を選ぶポイントなど、知りたいことをどんどん質問していました。

企業との繋がりを築き、地域に貢献できる取り組みとして、学生たちにとっては大変有意義な経験になっています。



学生の声

- 初めは緊張したが、いろいろ話ができて楽しかった
- 多種多様な企業と触れあえて、将来の選択肢も広がった
- やはり土木は就職に強いと思った
- 就職だけでなく、社会人としての心構えなどもアドバイスしてもらえた
- どの企業も社会や人のために役立つことを行っているの、自分もそこに携わりたいと思った

File02 人材育成と雇用創出に繋がる産官学連携授業

地域で活躍する社会人ロールモデルとの 交流から将来を思い描く

7月1日(火)、情報工学科2年次の授業「情報と職業」を活用し、学生と地域で活躍する社会人ロールモデルとの産官学連携授業を実施しました。地方創生・地域課題解決への取り組みの一環として、地域産業の発展を担う人材育成や雇用の創出と魅力ある持続可能な地域社会を目指し、福島県県中地方振興局と本学部が連携して行ったものです。学生は、福島県県中地方振興局管内に拠点がある地元企業の若手社員との交流授業の中で、理想の働き方や福利厚生、入社から10年後の生活をテーマに意見を交わし、卒業後の働く姿のイメージを思い描きました。

こうした地域で活躍する社会人ロールモデルとの交流を通して、学生の将来の就職に向け、キャリアデザインを考えるきっかけとし、将来の職業選択の一助となるよう学びの機会を創出しています。



学生の声

- なんとなく就職するなら東京かなと考えていたが、福島県内でも良い企業があることが分かった
- 漠然と首都圏の方が給料も高く、福利厚生も良いと思っていたが、福島県の会社も変わらないことが分かった
- 休みもしっかり取れるなら地元で就職したいと思った
- 知らない企業の情報を知る良い機会になって視野が広がった
- 会社がしっかりメンタルケアもして社員一人ひとりを大切にしているのが分かった